みんぱくリポジトリ
国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnolo

国立民族学博物館研究報告 vol.12-4; 表紙,目次ほか

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2010-02-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009218

1987——12巻4号

国立民族学博物館研究報告

●

マヤ文字の分析 II
——パレンケ————八杉佳穂

セントラル・カラハリ・サンにおける訪問者と居住者の社会関係と対面相互行為
——!Koi !kom 定住地での訪問活動の観察より————菅原和孝

滋賀県湖東一山村における狐憑きの生成と変容
——憑依表現の社会-宗教的，臨床的文脈————江口重幸

文字創製・改革にみた中国少数民族政策————庄司博史

国立民族学博物館

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園 TEL. 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

12巻 4号　　1987年

目　次

マヤ文字の分析II
——パレンケ——……八杉佳穂……871

セントラル・カラハリ・サンにおける訪問者と居住者の
社会関係と対面相互行為
——!Koi !kom 定住地での訪問活動の観察より——……菅原和孝……1031

滋賀県湖東一山村における狐憑きの生成と変容
——憑依表現の社会-宗教的，臨床的文脈——……江口重幸……1113

文字創製・改革にみた中国少数民族政策……庄司博史……1181

彙　報……1215

国立民族学博物館研究報告　12巻　総目次……1221

国立民族学博物館研究報告寄稿要項……1222

国立民族学博物館研究報告執筆要領……1223

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 12 No. 4 **1987**

YASUGI, Yoshiho — Analysis of the Mayan Glyphs: Part II, Palenque 871

SUGAWARA, Kazuyoshi — Social Relations and Face-to-Face Interactions between Visitor and Resident among the Central Kalahari San: Observations on Visiting Activity in !Koi !kom Community 1031

EGUCHI, Shigeyuki — Fox Possession (*kitsunetsuki*): Its Molded Process and Variation in a Mountain Village in the Eastern Area of Lake Biwa 1113

SHOJI, Hiroshi — The Chinese Policy in Developing Writing Systems for National Minorities 1181

彙　報 (昭和62年10月～昭和62年12月)

人事異動

(教育職)　　(昇　任)

12月1日　第二研究部教授　杉村　棟
(第二研究部助教授)
第四研究部教授　黒田　悦子
(第四研究部助教授)
第五研究部教授　崎山　理
(第五研究部助教授)
第五研究部教授　杉田　繁治
(第五研究部助教授)
第三研究部助教授　永ノ尾信悟
(第二研究部助手)

シンポジウム

◎「文化における身体性」

期間　昭和62年12月13日(日)～20日(日)

場所　国立民族学博物館

摘要　今回のシシポジウムでは，人間の身体が，社会・文化的にいかに脈絡づけられているかを明らかにするとともに，逆にまた人間の生みだした文化や文明の諸現象が，どれほど身体的なものによって支えられているかを検討しようとするものである。

組織委員会

委員長

梅棹　忠夫　国立民族学博物館長

委員

竹村　卓二　国立民族学博物館第一研究部長
佐々木高明　国立民族学博物館第二研究部長
伊藤　幹治　国立民族学博物館第三研究部長
藤井　知昭　国立民族学博物館第四研究部長
杉本　尚次　国立民族学博物館第五研究部長
和田　浩司　国立民族学博物館管理部長

実行委員会

委員長

野村　雅一　国立民族学博物館第五研究部助教授

副委員長

秋道　智彌　国立民族学博物館第一研究部助教授

委　員

小川　了　国立民族学博物館第三研究部助教授
杉島　敬志　国立民族学博物館第二研究部助手
久保　正敏　国立民族学博物館第五研究部助手
糸金則由紀　国立民族学博物館庶務課長
湯浅　叡子　財団法人千里文化財団専務理事
宇治日出二郎　財団法人千里文化財団事業部長

参加者

Diego Carpitella　University of Rome, Italy
Jean-Louis Durand　Centre de Recherches Comparees sur les Societes Anciennes, France
Adam Kendon　Indiana University, U.S.A. 兼 Australian National University, Australia
Michael Moerman　University of California Los Angeles, U.S.A.
Allegra F. Snyder　University of California Los Angeles, U.S.A.
小川　了　国立民族学博物館助教授
北村　光二　弘前大学人文学部助教授
菅原　和孝　北海道大学文学部助手
野村　雅一　国立民族学博物館助教授
平井タカネ　奈良女子大学文学部助教授
山口　昌男　東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授

日　程

12月13日(日)　(千里阪急ホテル)

17:00　登録

12月14日(月)（国立民族学博物館）

10:00　開会式
実行委員長趣旨説明・テクニカルノート

＜第1セッション＞
座長：Adam Kendon

10:40　報告1　北村光二
「Interactional Synchrony: A Fundamental Condition of Communication」

13:45　報告2　菅原和孝
「Role Differentiation in Facetoface Interactions in an 'Egalitarian' Society: Observations on the Central San」

15:30　報告3　Michael Moerman
「Lessons from the Body」

12月15日(火)（国立民族学博物館）

＜第2セッション＞　座長：菅原和孝

10:00　報告4　Diego Carpitella
「Kinesic Patterns and Traditional Behaviour in Italian Social Context」

13:00　報告5　Adam Kendon
「Gesture, Sign and Language」

12月16日(水)（国立民族学博物館）

＜第3セッション＞　座長：山口昌男

10:00　報告6　Jean-Louis Durand
「Gestures and Rituality in Ancient Greek Imagery」

13:00　報告7　Allegra F. Snyder
「Levels of Gesture in the Dance Event」

14:45　報告8　平井タカネ
「External Influences in the Transformation of Japanese Dance」

12月17日(木)
奈良・若宮見学

12月18日(金)（国立民族学博物館）

＜第4セッション＞
座長：Michael Moerman

13:00　報告9　野村雅一
「High-collar Decorum: the Conflict of Manners between Two Civilizations」

14:45　報告10　小川　了
「"Bodilessness" and Incongruity. The Image of Body among Fulani」

12月19日(土)（国立民族学博物館）

＜第5セッション＞　座長：小川　了

10:00　報告11　山口昌男
「The Foot as Body Metaphor in Japanese Culture」

13:00　総合討論　座長：野村雅一

12月20日(日)（千里阪急ホテル）
ワークショップ
解　散

◎「現代日本文化における伝統と変容」
—日本人と遊び—

期間　昭和62年12月22日(火)～24日(木)

場所　国立民族学博物館

摘要　国立民族学博物館の特別研究「現代日本文化における伝統と変容」は，昭和58年春以来，毎年1回，都合5回のシンポジウムを開催してきた。その最終目標は，柳田国男の『明治大正史世相篇』の現代版をつくろう—というところにある。柳田はそれを個人であらわしたが，我々は，それをシンポジウムという共同の作業の累積を通じて実現させようとしているのである。

この目標にむけて，これまで美意識，人生設計，人間関係，都市のフォークロア，"神話"のテーマがとりあげられてきた。本年は回をかさねて6回目，「日本人と遊び」をテーマとする。

シンポジウム委員会

守屋　毅（委員長）　国立民族学博物館第一研究部

久保　正敏　国立民族学博物館第五研究部

瀬川　昌久　国立民族学博物館第一研究部
杉島　敬志　国立民族学博物館第二研究部
木田　良次　国立民族学博物館管理部庶務課共同利用係長
寺島　　緑　「伝統と変容」事務局

報告者

石毛　直道　国立民族学博物館
石森　秀三　国立民族学博物館
井上　章一　国際日本文化研究センター
井上　忠司　甲南大学（民博客員）
井上　　宏　関西大学
神崎　宣武　日本観光文化研究所
熊倉　功夫　筑波大学
栗田　靖之　国立民族学博物館
杉本　尚次　国立民族学博物館
高田　公理　愛知学泉女子短期大学
田中　優子　法政大学
服部　幸雄　千葉大学
守屋　　毅　国立民族学博物館

討論参加者

井上　　俊　大阪大学
梅棹　忠夫　国立民族学博物館
小山　修三　国立民族学博物館
杉田　繁治　国立民族学博物館
祖父江孝男　放送大学
佐藤　信行　広島大学（民博客員）
大丸　　弘　国立民族学博物館
竹村　卓二　国立民族学博物館
藤井　知昭　国立民族学博物館
森田　恒之　国立民族学博物館
山下　諭一　日本ジャーナリスト専門学校
吉田　集而　国立民族学博物館
米山　俊直　京都大学

日　程

12月22日(火)

10:00　（司会　竹村　卓二）
10:30　問題提起：日本人と遊び　守屋　　毅
13:15　あいさつ　梅棹　忠夫
＜スポーツ＞（司会　井上　忠司）
野球をめぐる文化地理学的考察　杉本　尚次
15:15　日本人の山遊び　栗田　靖之
＜旅行＞（司会　佐藤　信行）
15:30　物見遊山の民俗　神崎　宣武
17:30　参詣から観光・行楽へ　石森　秀三

12月23日(水)

＜飲食＞（司会　小山　修三）
10:00　18世紀の飲食と遊戯の場　田中　優子
12:00　現代の外食のグルメ　井上　忠司
＜ギャンブル＞（司会　杉田　繁治）
13:15　賭博―その技術革新・制度化・装置化　高田　公理
15:15　パチンコ―遊びのなかの仕事　石毛　直道
＜性＞（司会　吉田　集而）
15:30　遊里と岡場所　熊倉　功夫
17:30　愛の空間―ラブ・ホテル考現学　井上　章一

12月24日(木)

＜芸能＞（司会　藤井　知昭）
10:00　芝居小屋から劇場へ　服部　幸雄
12:00　寄席からテレビへ　井上　　宏
13:15　総括討論（司会　守屋　　毅）

海外における研究・調査・収集活動

氏　名	官　職	出　発	帰　国	行　先
江口　一久	助教授（第三研究部）	62. 10. 1	63. 2. 3	モーリタニア，セネガル，トーゴ，カメルーン，フランス
友枝　啓泰	教　授（第四研究部）	62. 10. 6	63. 3. 7	ペルー
大森　康宏	助教授（第三研究部）	62. 10. 10	62. 10. 18	イタリア

中牧　弘允	助教授（第一研究部）	62.10.15	63. 1.14	ブラジル
佐々木史郎	助　手（第一研究部）	62.10.15	63. 8.14	ソビエト連邦
ケネス・ラドル	助教授（第五研究部）	62.10.17	62.11.21	マレーシア，シンガポール，フィリピン
森田　恒之	助教授（第五研究部）	62.10.19	62.11. 9	フランス，ベルギー
石毛　直道	教　授（第四研究部）	62.10.24	62.10.29	香港
櫻井　哲男	助　手（第五研究部）	62.10.31	62.11. 2	大韓民国
田中　雅一	助　手（第二研究部）	62.11.14	63. 3.15	インド，ネパール
端　　信行	助教授（第三研究部）	62.11.15	63. 2.12	カメルーン，フランス，ドイツ連邦共和国
片倉　素子	教　授（第二研究部）	62.11.20	63.12.29	アラブ首長国連邦，カタール，バーレーン，サウジアラビア，ユーゴスラビア，イラン，クウェート，オマーン，バングラデシュ，インド
大森　康宏	助教授（第三研究部）	62.11.30	63. 1.30	イタリア，フランス，オランダ
永ノ尾信悟	助教授（第三研究部）	62.12. 4	63. 2.23	インド，ネパール
ケネス・ラドル	助教授（第五研究部）	62.12. 4	62.12.14	中華人民共和国
利光　有紀	助　手（第一研究部）	62.12.15	63.10.14	中華人民共和国
須藤　健一	助教授（第一研究部）	62.12.20	63. 1.10	アメリカ合衆国，ミクロネシア連邦
櫻井　哲男	助　手（第五研究部）	62.12.25	63. 1. 9	中華人民共和国
崎山　　理	教　授（第五研究部）	62.12.28	63. 1.17	インドネシア

来館者抄

10月1日　林　　久（法務総合研究所研修第三部教官）

10月5日　中国，中央工芸美術学院訪日代表団一行

団長　常沙娜（中央工芸美術学院長，教授）

副団長　李綿路（中央工芸美術学院副院長，副教授）

団員　陳漢民（中央工芸美術学院装飾デザイン系主任，教授）

崔棟良（中央工芸美術学院教務長，副教授）

張綺曼（中央工芸美術学院インテリアデザイン系主任）

通訳　馮日珍

連絡員　板屋一弘（東京芸術大学美術学部）

西田　誠哉（国際花と緑の博覧会政府代表大使）

10月12日　Martha Isolina PAULICK（ウルグアイ，ウルグアイ言語学協会事務局長）

中国，人民対外友好協会代表団一行

団長　黄世明（中国人民対外友好協会副会長，中国日本友好協会副会長，中国人民政治協商会議全国委員会委員）

団員　孟偉哉（作家，中国作家協会理事，中共中央宣伝部文芸局局長）

林爾蔚（商務印書館総経理，中国出版工作者協会理事）

韓美林（画家，中国美術家協会理事，中国人民政治協商会議全国委員会委員）

団員兼秘書長　呉 瑞 鈞（中国人民対外友好協会全国理事会理事，中国日本友好協会副秘書長）
賈 惠 萱（中国人民対外友好協会亜州事務理事，中国日本友好協会理事，友好交流部部長）
団員　張 利 利（中国日本友好協会城市交流部副部長）

10月19日　Claude TARDITS（フランス，Le Président de I'Ecole pratique des Hautes Etudes）

10月20日　Ghulam Ali ALLANA（パキスタン，アラマ・イクバール・オープン・ユニバーシティ副学長）

10月30日　Sjarif THAYEB（インドネシア，ダルマ・プルサダ大学長）
Bambang Surjo Surindar BALITAR（インドネシア，ダルマ・プルサダ大学海洋工学部副学部長）

11月2日　馮 岑 植（中国，中国作家協会内蒙古分会所属作家）
Hoontrakool SOMMAI（タイ，日泰修交百周年記念事業タイ側実行委員長・泰日協会会長・前大蔵大臣）

11月3日　呉 家 炎（中国，陝西省動物研究所副所長），
朝日　稔（兵庫医科大学教授）

11月4日　牟田口道夫（国際協力事業団副総裁），
襖田　和（国際協力事業団関西支部長），
中村　信（国際協力事業団大阪国際研修センター所長）

11月6日　A・P・ジェレビヤンコ（ソビエト連邦，科学アカデミーシベリア支部　歴史・文学・哲学研究所長），
R・S・ワシリエフスキー（ソビエト連邦，科学アデミーシベリア支部　歴史・文学・哲学研究所副所長），
V・I・モロージン（ソビエト連邦，科学アカデミーシベリア支部　歴史・文学・哲学研究所研究員），
A・V・マルキン（ソビエト連邦，科学アカデミーシベリア支部　歴史・文学・哲学研究所研究員），
E・ラウロフ（ソビエト連邦，科学アカデミーシベリア支部　歴史・文学・哲学研究所研究員），
加藤　晋平（筑波大学教授）

11月10日　Reuben Mwangi KAMONDE（ケニア，国際協力事業団外国人受託研修員），
桜井　宣隆（図書館情報大学図書館情報学部教授）

11月11日　宮島安世（国立国会図書館専門資料部アジア資料課主査）

11月12日　Shmuel Noah EISENSTADT（イスラエル，ヘブライ大学社会科学部教授）
滋賀県立近代美術館職員研修一行

11月13日　P. WEISSGLAS（スウェーデン，王立工科大学教授）

11月15日　木通　邦武（熊本市立熊本博物館協議会委員），
上原　昇（熊本市立熊本博物館副館長）
中国，北京師範大学来日研修団一行
林 璧 君（北京師範大学外事処々長）
銭 桐 柏（北京師範大学総務長）
王 樹 琪（北京師範大学外事処幹部）

李　雪（北京師範大学外事処科長）
同行者　陳鳳介（桐蔭学園工業高等専門学校講師）
志村公孝（桐蔭学園工業高等専門学校助教授）

11月16日　Vera LINHARTOVA（ICOM 国際博物館協議会情報センター職員）

11月18日　中国，社会科学院日本研究所一行
何　方（中国社会科学院日本研究所所長）
馬桐山（中国社会科学院日本研究所『日本問題』編集部副編集長）
崔勇列（中国社会科学院日本研究所『日本問題』編集部編集員）
栄以敏（北京国際問題研究所所員，何　方夫人）
同行者　石井和男（東京大学出版会専務理事）
浜地一樹（日本原子力産業会議秘書室長代理，有澤廣巳秘書）

11月26日　中国，黒龍江省古遺跡・文化保護考察団一行
設楽　靖子（ユネスコ東アジア文化センター参事）
薮　忠綱（ペルー国駐劄・特命全権大使，財団法人天野博物館理事長臨時代理）

11月27日　Bernard Robert HILLIER（ニュージーランド，対外情報局長）
John M.HUNDLEBY（在大阪ニュージーランド総領事館総領事兼通商代表）
Adrian C.MAYER（連合王国，Professor Emeritus of Asia Anthropology, University of London）
韓国文化芸術振興院一行
林東至（韓国文化芸術振興院文芸会館長）
柳賢錫（韓国文化芸術振興院基金部）
尹圭煥（韓国文化芸術振興院監査部）
朴柱官（韓国文化芸術振興院研修館幹事）

11月28日　費孝通（中国，中央民族学院教授），
費宗惠（中国，北京建築工程学院講師），
宇野　重昭（成蹊大学教授），
鶴見　和子（上智大学教授），
鵜浦　裕（北里大学講師）

11月30日　Themba SONO（アメリカ合衆国，ワシントン・アフリカアジア研究所長）

12月4日　Moreira NARA（ブラジル，労働省移住局長）
中国，内蒙古自治区青年幹部代表団一行
団長　李文昌（内蒙古自治区外事弁公室副主任）
副団長　賽　音（内蒙古自治区外事弁公室副処長）
団員　馬智民（内蒙古自治区旅遊服務公司副経理）
花鉄錚（内蒙古自治区外事弁公室職員）
索　欣（内蒙古自治区外事弁公室蘇蒙処職員）
中国，北京工業大学代表団一行

12月14日　荻野　和彦（愛媛大学農学部教授）

12月19日　Simon Gregory PENTANU（パプア・ニューギニア，国会事務局長）

国立民族学博物館研究報告　12巻　総目次

12巻 1号

RUDDLE, Kenneth: The Ecological Basis for Fish Fermentation in Freshwater Environments of Continental Southeast Asia: with Special Reference to Burma and Kampuchea …… 1

藤井　龍彦：中央アンデスの定期市――ボリビア領ラパス県高地部の事例―― …… 49

黒田　悦子：メキシコの仮面――芸能による分類の試み―― …… 129

大丸　　弘：専門図書館における非図書資料の位置づけ
高橋　晴子　――服装情報サービスの基本技術―― …… 175

HAYASHI, Takao: Ritual Application of Mensuration Rules in India: An Edition of Gaṇeśa's *Kuṇḍasiddhyudāhṛti* with Mathematical Commentary …… 199

12巻 2号

石毛　直道：東南アジアの魚醤――魚の発酵製品の研究(5)―― …… 235
ケネス・ラドル

吉本　　忍：手織機の構造・機能論的分析と分類 …… 315

出口　晶子：刳船発達諸形態の分類と地域類型――日本とその隣接地域を中心として―― …… 449

和田　　完：アイヌのお産――和田文治郎遺稿―― …… 499

大塚　和義：19世紀中葉以前におけるアイヌの通過儀礼
――松浦武四郎筆画『蝦夷風俗画誌』稿本を中心に―― …… 513

12巻 3号

佐々木高明：東南アジアの焼畑における陸稲化現象――その実態と類型―― …… 559

松山　利夫：アーネムランド・アボリジニ，ジナン族の狩猟と食物規制 …… 613

瀬川　昌久：械闘と村落連合――香港新界中西部5郷の事例より―― …… 647

片倉もとこ：異文化環境におけるムスリム
――カナダにおけるアラブムスリム社会の形成―― …… 681

守屋　　毅：ピーボディー科学アカデミーの成立――モース研究の一環として―― …… 727

水谷　忠士：魚醤の化学分析と「うま味」の文化圏――魚の発酵製品の研究(6)―― …… 801
君塚　明光
ケネス・ラドル
石毛　直道

12巻 4号

八杉　佳穂：マヤ文字の分析Ⅱ――パレンケ―― …… 871

菅原　和孝：セントラル・カラハリ・サンにおける訪問者と居住者の社会関係と対面相互
行為――!Koi !kom 定住地での訪問活動の観察より―― …… 1031

江口　重幸：滋賀県湖東一山村における狐憑きの生成と変容
――憑依表現の社会-宗教的，臨床的文脈―― …… 1113

庄司　博史：文字創製・改革にみた中国少数民族政策 …… 1181

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は，民族学（文化人類学）に関する論文，資料・研究ノート，調査研究活動報告等を掲載・発表することにより，民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は，次のとおりとする。
   (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織，運営に関与する者
   (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
   (3) その他本館において適当と認めた者
3. 原稿を寄稿する場合は，論文，資料・研究ノート，調査研究活動報告等のうち，いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお，この区分についての最終的な調整は，国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は，原則として論文及び資料・研究ノートを1段組，その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は，日本語，英語，フランス語，スペイン語，ロシア語，中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし，その他の言語を用いる場合は，編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字，記号，印刷方法等が必要な場合は，編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で，日本語を使用する場合は，原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし，その他の言語による論文の場合は，編集委員会に相談するものとする。なお，寄稿する原稿については，執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は，原則として制限しない。ただし，編集する場合は編集委員会の判断により，紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は，必ず清書（欧文の場合はタイプ）し，原稿の写し1部を添付するものとする。なお，図，表のスミ入れ，レタリングは，編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は，審査委員会において審査のうえ，採否を決定する。なお，原稿は，採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い，掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては，別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は，次のとおりとする。

〒565　大阪府吹田市千里　万博公園10-1
国立民族学博物館内
国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表 06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は，200字詰原稿用紙を使用し，横書きとする。
2. 原稿は，図，表を除き，原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は，原則として当用漢字，現代かなづかいを用いる。
4. 句読点，括弧，各種記号等は，原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号，月日及びその他の数字は，原則としてアラビア数字を用いる。なお，年号は，原則として西暦とする。
6. 図及び表は，一図，一表ごとに別紙に書き，本文とは別に一括して添付するものとする。なお，図，表ごとに通し番号（「図1」，「表1」等の要領により記入），図，表名及び説明並びに出典等を記し，本文原稿の欄外には，それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は，写りの明瞭なもので，手札判以上の大きさに焼き付けたものに限り，図及び表の扱いに準じて通し番号，説明を付けたうえ，そう入箇所を指定するものとする。ただし，カラー写真は，原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は，カギ括弧を付け，著者名，文献刊行年次，引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

   [柳田 1942: 67–69]

   [Leach 1961: 123]

   [柳田 1942: 67–69, 1944: 20–22; Leach 1961: 123]

   ただし，同年次刊行物の場合は，アルファベット順により，下記のように記載するものとする。

   [柳田 1942a: 20–22] [柳田 1942b: 10]
9. 脚注は，一つ一つ別紙に記し，通し番号を付ける。なお，本文中に脚注をそう入する箇所には，脚注の当該番号を記入し，別紙の脚注には，本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は，すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。

   (1) 文献の配列は，著者名のアルファベット順とすること。

   (2) 文献の記載は，著者名，年号，論題（タイトル），誌名，巻，号，出版社名の順とすること。欧文の雑誌名及び単行本名は，イタリック体にするため，原稿には下線を引くこと。また，ローマ字人名は，スモール・キャピタルとするため，二重下線を引き，日本文の場合は，論題にカギ括弧，雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は，原則としてアラビア数字を用いること。

   (例)

   論文の場合 (1)

   石田英一郎

   1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』 13(4): 311–330。

   Bohannan, P.

   1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14(4): 357–372.

   論文の場合 (2)

   杉浦 健一

   1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店，pp. 117–143。

Leach, Edmund

1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse. In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language, The M. I. T. Press, pp. 23–63.

単行本の場合

泉　靖一

1966 『文明をもった生物』 日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

1974 『シャーマニズム——古代的エクスタシー技術——』 堀一郎訳　冬樹社。

van Gennep, Arnold

1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告　12巻4号

〔監　　修〕
梅　棹　忠　夫
〔編集委員長〕
竹　村　卓　二
〔編集委員〕
君　島　久　子
ケネス・ラドル
崎　山　　理
須　藤　健　一
田　中　雅　一
田　邊　繁　治
垂　水　　稔
中　山　和　芳
長　野　泰　彦
福　井　勝　義
宮　本　　勝
山　本　紀　夫
和　田　正　平

昭和63年3月26日　発行　非売品

国立民族学博物館研究報告　12巻4号

編集・発行　国立民族学博物館
〒565　吹田市千里万博公園10-1
TEL 06 (876) 2151 (代表)

印　　刷　中西印刷株式会社
〒602　京都市上京区下立売通小川東入
TEL 075 (441) 3155 (代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.12 no.4
1987

YASUGI, Yoshiho — Analysis of the Mayan Glyphs: Part II, Palenque

SUGAWARA, Kazuyoshi — Social Relations and Face-to-Face Interactions between Visitor and Resident among the Central Kalahari San: Observations on Visiting Activity in !Koi !kom Community

EGUCHI, Shigeyuki — Fox Possession (*kitsunetsuki*): Its Molded Process and Variation in a Mountain Village in the Eastern Area of Lake Biwa

SHOJI, Hiroshi — The Chinese Policy in Developing Writing Systems for National Minorities

ISSN 0385-180X

National Museum of Ethnology

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-876-2151